

北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成29年7月3日

(2) 調査対象期間 平成29年4月～6月期実績および平成29年7月～9月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業		30社	22社	73.3%
建設業		30社	22社	73.3%
卸売業		30社	25社	83.3%
小売業		35社	22社	62.8%
サービス業		25社	16社	64.0%
合計		150社	107社	71.3%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成29年度第I四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」23.4%、「悪化企業」25.2%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△1.8となっています。このD・I値を、前年同期（△6.9）と比較してみると5.1ポイントの好転傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△13.6、建設業D・I値27.3、卸売業D・I値4.0、小売業D・I値△9.1、サービス業D・I値△2.5となっており、前年同期調査と比較すると、建設業で49.1ポイント、卸売業で16.0ポイント、小売業で2.4ポイントの改善傾向が見られる一方、製造業が25.6ポイント、サービス業が2.5ポイント悪化となり、業種間で大きく分かれる結果となりました。

特に、建設業はマイナスからプラスへ転じる大幅な好転を示した一方で、製造業はプラスからマイナスへ転じる大幅な悪化傾向を示しました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」21.5%「悪化企業」29.0%でD・I値△7.5と、前年同期見通し（△17.3）に比べ9.8ポイントの好転となり、依然予断を許さないものの若干明るさも見える来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」13.6%、「減少企業」27.3%、D・I値△13.7と前年同期に比べ17.7ポイントの悪化となりました。

採 算

前年比で「好転企業」9.1%、「悪化企業」31.8%、D・I値△22.7と、前年同期に比べ△6.7ポイントの悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△18.2、生産高D・I値△13.6、資金繰りD・I値△13.6と、前年同期と比べ全てで若干好転傾向を示す結果となりました。

2) 建 設 業

完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」45.5%、「減少企業」22.7%、D・I値22.8と、前年同期と比べ48.9ポイントの大幅な好転となりました。

採 算

前年比で「好転企業」22.7%、「悪化企業」18.2%、D・I値4.5と、前年同期に比べ17.5ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△13.6、完成工事高D・I値△13.6、資金繰りD・I値△18.2と前年同期に比べ業況と完成工事高は若干好転を示し、資金繰りは悪化を示す結果となりました。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」32.0%、「減少企業」16.0%、D・I値16.0と、前年同期と比べ20.0ポイントの好転となりました。

採算

前期比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」8.0%、D・I値12.0と前年同期に比べ28.0ポイントの大幅な好転となりました。

来期見通し

業況D・I値12.0、売上高D・I値16.0、資金繰りD・I値12.0と、前年同期と比べ全てで好転を示す結果となりました。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」27.2%「減少企業」36.4%、D・I値△9.2と、前年同期に比べ6.2ポイントの若干好転となりました。

採算

前年比で「好転企業」18.2%「悪化企業」36.4%、D・I値△18.2と、前年同期に比べ10.4ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△22.8、売上高D・I値△22.8、資金繰りD・I値△22.8と、前年同期と比べ全てで悪化傾向を示す結果となりました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」18.7%、「減少企業」31.3%、D・I値△12.6と、前年同期と同数で横ばいとなりました。

採算

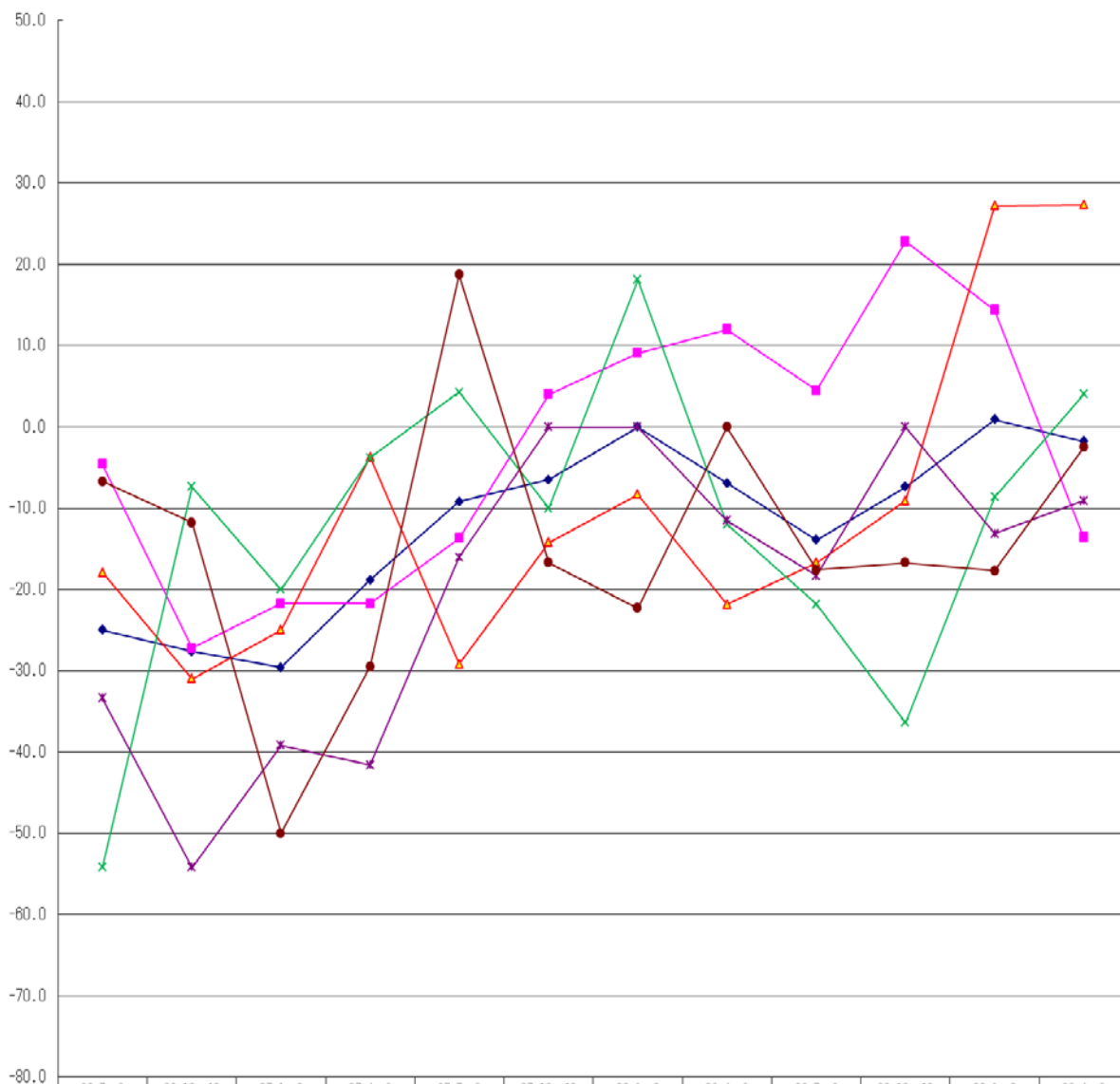
前年比で「好転企業」18.2%、「悪化企業」36.4%、D・I値△18.2と、前年同期に比べ5.6ポイントの悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値6.3、売上高D・I値12.5、資金繰りD・I値△22.8と、前年同期に比べ、資金繰りは悪化を示したが、業況と売上高についてはマイナスからプラスへ転じる好転を示す結果となりました。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
 ■ 製造業
 ▲ 建設業
 × 卸売業
 ✕ 小売業
 ● サービス業



	26.7~9 26年度Ⅱ	26.10~12 26年度Ⅲ	27.1~3 26年度Ⅳ	27.4~6 27年度Ⅰ	27.7~9 27年度Ⅱ	27.10~12 27年度Ⅲ	28.1~3 27年度Ⅳ	28.4~6 28年度Ⅰ	28.7~9 28年度Ⅱ	28.10~12 28年度Ⅲ	29.1~3 28年度Ⅳ	29.4~6 29年度Ⅰ
◆ 全業種	-25.0	-27.6	-29.6	-18.8	-9.2	-6.5	0.0	-6.9	-13.9	-7.4	0.9	-1.8
■ 製造業	-4.6	-27.2	-21.7	-21.7	-13.7	4.0	9.1	12.0	4.5	22.8	14.4	-13.6
▲ 建設業	-17.9	-31.0	-25.0	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1	27.2	27.3
× 卸売業	-54.2	-7.4	-20.0	-3.8	4.3	-10.0	18.1	-12.0	-21.8	-36.4	-8.6	4.0
✕ 小売業	-33.4	-54.2	-38.2	-41.6	-16.0	0.0	0.0	-11.5	-18.3	0.0	-13.1	-8.1
● サービス業	-6.7	-11.8	-50.0	-29.5	18.7	-16.7	-22.3	0.0	-17.6	-16.7	-17.7	-2.5

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
建 設 業	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	得 意 先 減 少
卸 売 業	同 業 者 間 の 競 合	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	同 業 者 間 の 競 合	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同 業 者 間 の 競 合
合 計	人 材 不 足	諸 経 費 増	同 業 者 間 の 競 合	人 件 費 増	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○ 前年同期比

全業種で見ると、前年同期調査の1位と2位が入れ替わり「人材不足」がトップとなった。また、前年4位の「同業者間の競合」が3位、5位だった「人件費増」が4位となり、前年3位だった「得意先の減少」が5位となった。

業種別で見ると、製造業、小売業、サービス業で「人材不足」が2位と順位を上げており、小売業では「同業者間の競合」が新たにトップとなる結果となった。卸売業のみ順位に変動は無かった。

全体を通して、「人材不足」が上位に上がってきており、より深刻化していることが伺える。また、「諸経費増」「同業者間の競合」という問題も前年同様に抱えていることが伺える。

※その他及び具体的な問題点の記載事項 (※は複数事業者が回答)

(製造) ○設備等の老朽化

(建設) ○数年先の工事の見込みが少ないため、計画的な投資ができない
○オホーツク管内だけ景気が良くない

(卸売) ○人材の減少・高齢化
○販売価格の抑制傾向による利幅の縮小

(サービス) ○大手チェーン店の進出による売上減が厳しい

業 況

(太字アンダーラインは複数事業所が回答)

製造業 ⇒ 好転 (金属製品製造、農業用機械製造)
悪化 (印刷、菓子)

建設業 ⇒ 好転（一般土木・建築、管・土木、塗装工事）
悪化（冷暖房、給排水）

卸売業 ⇒ 好転（塗料、鋼材、医療用品）
悪化（厨房用機械、酒類、化粧品）

小売業 ⇒ 好転（菓子、メガネ販売、自動車、介護用品、火薬）
悪化（衣料品、呉服、米、酒類、額縁・絵画、生鮮食品）

サービス業 ⇒ 好転（そば、システム開発）
悪化（ホテル、理容、レンタカー）